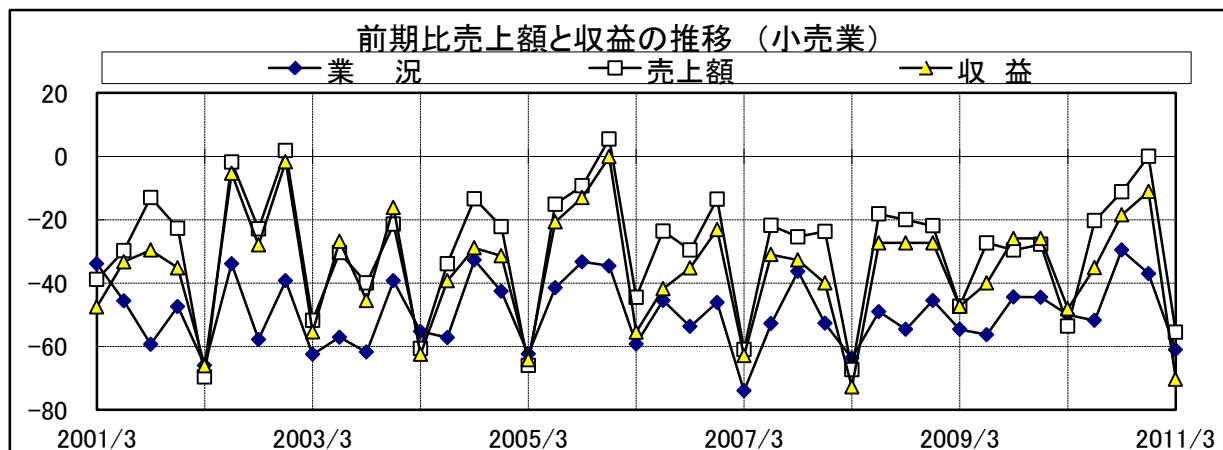


## 小 売 業 54 企 業 ( 回 答 率 100.0% ) の 調 査 結 果 で す

### □ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-29.6	-37.0	-61.1	-57.4
売上額	-11.2	0.0	-55.5	-33.3
収益	-18.5	-11.1	-70.3	-40.7

今期の業況判断DIは△61.1と、前期比マイナス幅が拡大し24.1ポイント低下した。地区別にみると、様似、えりも、三石、広尾、静内、浦河の順に低い値となっている。売上額、収益判断DIは、売上額が△55.5、収益が△70.3とそれぞれ前期比マイナス幅を拡大した。

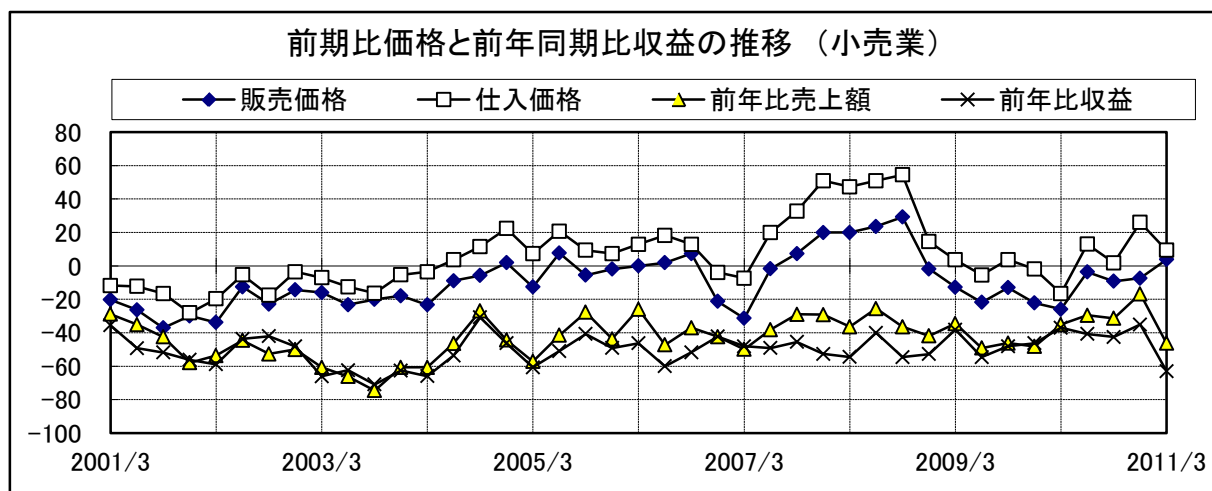


### □ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	-9.2	-7.4	3.8	11.1
仕入価格	1.8	26.0	9.3	18.5

販売価格判断DI(3.8)は、前期比マイナスからプラス値に転じ11.2ポイント上昇、価格上昇基調となっている。仕入価格判断DI(9.3)は、前期比16.7ポイント下降、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、家電品が販売・仕入価格で低下基調にあり、衣料品では、販売・仕入価格とも上昇基調が止まっている。

食料品は販売価格が上昇基調、仕入価格が低下基調となっている。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-9.3	-1.9	-16.7	-13.0
人手状況	5.6	-3.6	7.4	3.7

残業時間判断DIは△16.7と、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断DIは7.4と、前期比マイナスからプラス値に転じ11.0ポイント上昇、人手「過剰」超となっている。

## □ 設備投資の動き

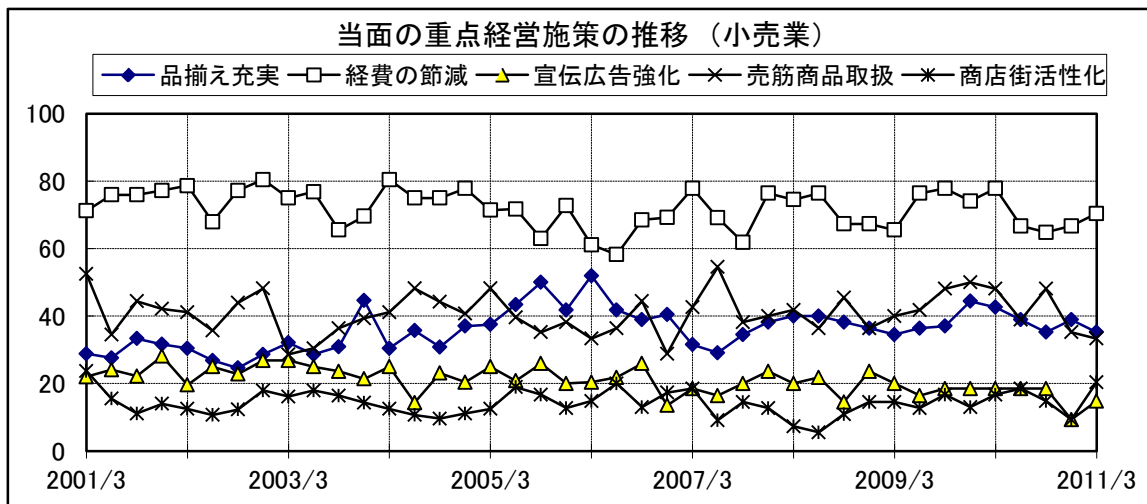
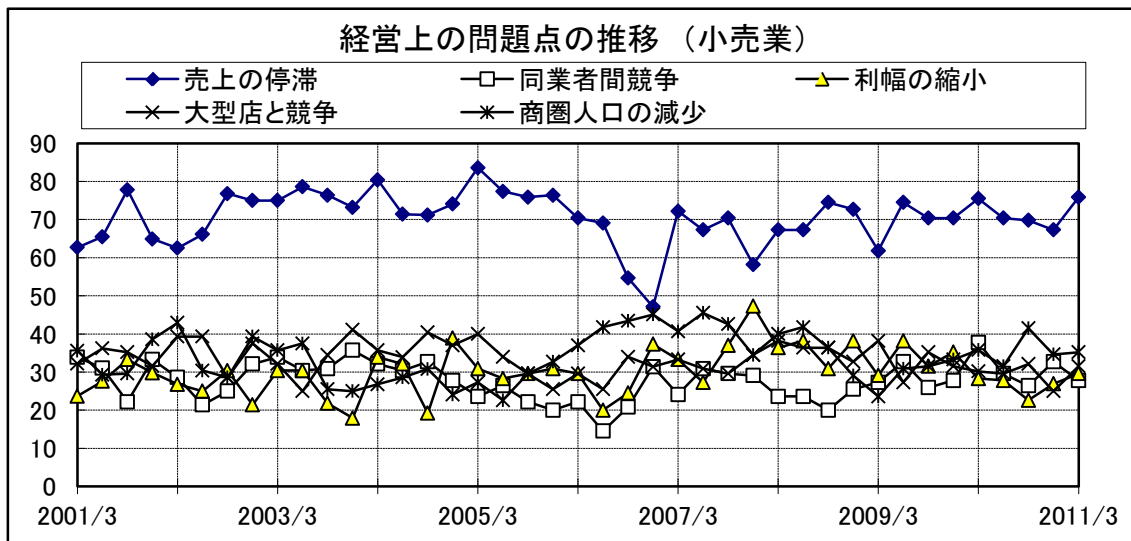
設備投資の充足感を示すD Iは△16.6と、前期(△14.8)からマイナス値が拡大し1.8ポイント低下、不足感が強まる。一方、適正と回答した企業は79.6%と、前期(81.4%)から1.8ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は9.3%と、前期(13.0%)比3.7ポイント下降、件数で前期の7社に対し実施5社となった。また、来期予定は6社となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」75.9%をトップに挙げ、次いで「商圈人口の減少」35.2%、「大型店との競合」31.5%、「利幅の縮小」29.6%、「同業者との競合」27.8%の順に続く。

重点経営施策では、「経費の節減」70.4%をトップに挙げ、次いで、「品揃を改善する」35.2%、「売れ筋商品取扱い」33.3%、「仕入先の開拓選別」22.2%、「商店街活性化」20.4%の順となっている。



## □ 来期の見通し

来期(平成23年4~6月期)の予想業況判断D Iは△57.4と、今期(△61.1)実績比3.7ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が△33.3(今期△55.5)、収益が△40.7(今期△70.3)と、それぞれマイナス値が縮小し22.2、29.6ポイントの上昇見通しとなっている。

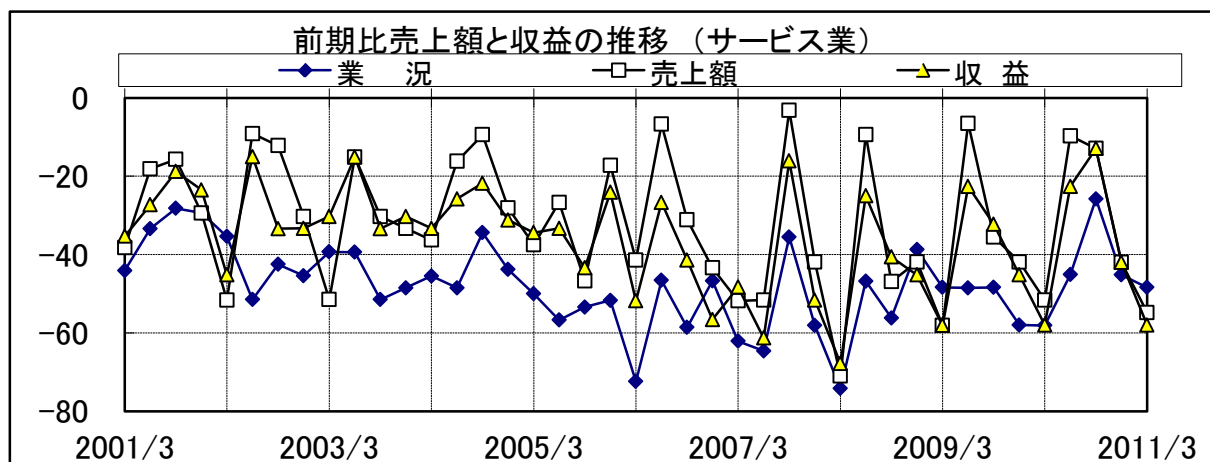
予想販売、予想仕入価格判断D Iは、販売価格が11.1(今期3.8)、仕入価格が18.5(今期9.3)と、それぞれ7.3ポイント、9.2ポイントの上昇見通しとなっている。

## サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

### □ 概 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-25.8	-45.2	-48.4	-67.7
売上額	-12.9	-42.0	-54.8	-42.0
収 益	-12.9	-42.0	-58.0	-54.9

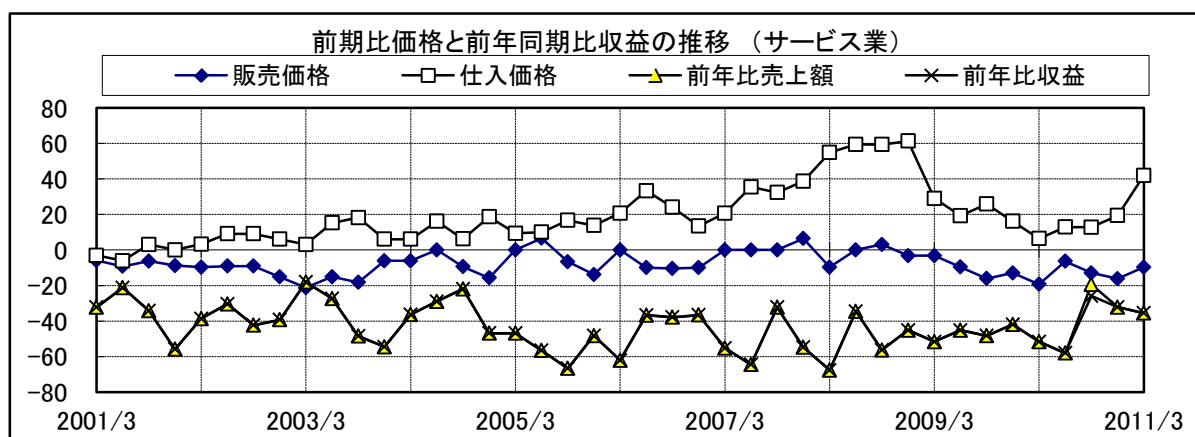
今期の業況判断DIは $\Delta 48.4$ と、前期比マイナス幅が拡大し3.2ポイント低下している。地区別にみると、えりも、三石、静内、浦河、様似、広尾の順に低い値となっている。売上額、収益判断DIは、前期比売上額、収益ともにマイナス幅が拡大し、それぞれ12.8、16.0ポイント低下した。



### □ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
料金価格	-12.9	-16.2	-9.7	3.2
材料価格	12.8	19.4	42.0	-41.9

料金価格判断DI ( $\Delta 9.7$ )は、前期比マイナス幅が縮小し6.5ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、材料価格判断DI (42.0)は、前期比プラス幅が拡大し22.6ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、旅館では料金が横ばい、材料価格は上昇基調。洗濯美容は、料金で低下基調が弱まり、材料は上昇基調となっている。自動車整備は料金が低下基調、材料では上昇基調が強まっている。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-13.0	-16.1	-16.2	-16.2
人手状況	-9.7	3.2	3.2	0.0

残業時間判断DIは $\Delta 16.2$ と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比0.1ポイント低下した。人手過不足判断DIは3.2と、前期比横ばい。前期同様、人手「過剰」超となっている。

## □ 設備投資の動き

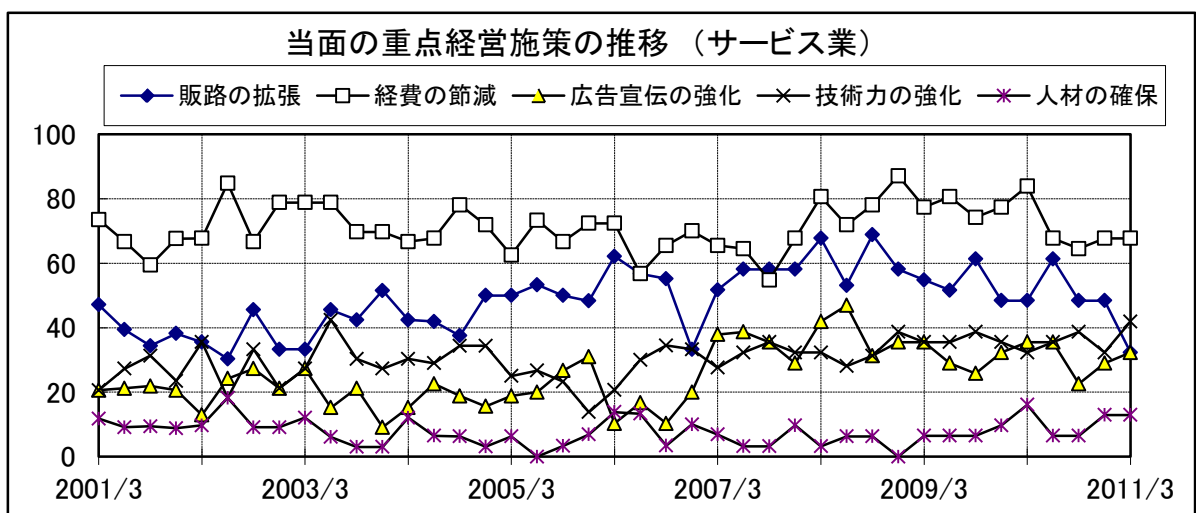
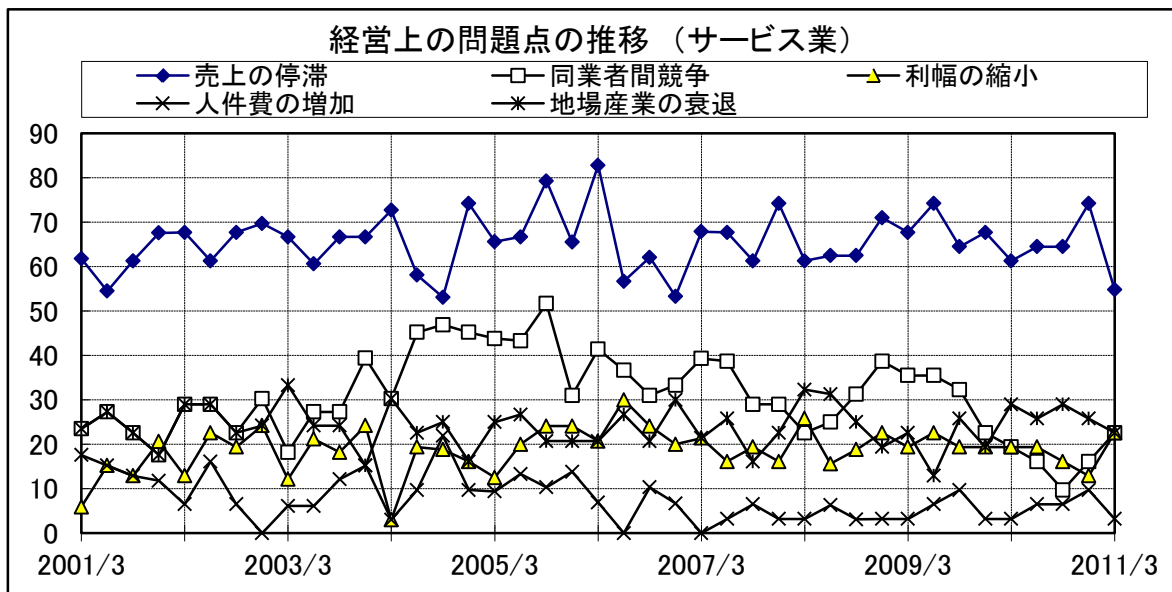
設備投資の充足感を示すD Iは△16.2と、前期(△9.6)比不足感を強めマイナス幅が6.6ポイント拡大した。また現在の設備状況が、適正と回答した企業は、71.0%と、前期(77.4%)から6.4ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は16.1%と、前期(22.6%)比6.5ポイント下降。来期予定では、今期の5社に対し4社となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」54.8%をトップに挙げ、次いで「商圏人口の減少」41.9%、「材料価格の上昇」29.0%、「同業者間との競合」、「取引先の減少」、「利幅の縮小」、「地場産業の衰退」はいずれも22.6%となっている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ67.7%、次いで「技術力を強化する」41.9%、「宣伝広告の強化」32.3%、「販路を広げる」32.3%の順となっている。



## □ 来期の見通し

来期(平成23年4~6月期)の予想業況判断D Iは△67.7と、今期(△48.4)実績比19.3ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が△42.0(今期△54.8)と、今期実績比マイナス幅が縮小し12.8ポイント上昇、収益が△54.9(今期△58.0)と、今期実績比3.1ポイントの改善見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断D Iは、比料金価格が3.2(今期△9.7)と価格上昇基調に転じている。一方、材料価格は41.9(今期42.0)と、ほぼ横ばいの価格上昇基調見通し。